

# 令和5年度

## 事業報告書 （評議員会資料）

（自）令和5年（2023年）4月1日

（至）令和6年（2024年）3月31日

令和6年（2024年）6月26日

社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会

# 令和5年度 事業報告書

## 目 次

事業項目等	頁
○ はじめに（鹿島市社協の概要）	1
1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施	2
2. 社会福祉に関する活動への市民のための支援	5
3. 社会福祉を目的とする事業に関する 調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成	6
4. 社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業	9
5. 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡	10
6. 共同募金事業	11
7. 福祉サービス利用援助事業	12
8. 福祉資金貸付事業	13
9. 鹿島市ボランティア活動センター運営	15
10. 自立相談支援事業（生活困窮者自立支援事業）	17
11. 就労準備支援事業（生活困窮者自立支援事業）	19
12. 家計改善支援事業（生活困窮者自立支援事業）	19
13. 生活困窮者支援機能強化事業（生活困窮者自立支援事業）	20
14. 生活支援体制整備事業	22
15. 福祉バスの運行管理事業	27
16. その他この法人の目的達成のために必要な事業	27
（参考資料）	
・ 資金収支決算概要書（決算関係）	29
・ 会費、寄付金、募金等の状況	32
・ 組織図、職員配置一覧、役員等名簿	33

# 1. 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施

## (1) 理事会の開催（開催回数4回）

◆第1回理事会 令和5年6月7日（水）理事（出席7人 欠席2人）監事（出席2人 欠席なし）

### 議題

- 議案第1号 評議員（補充）候補者の推薦について
- 議案第2号 令和5年度評議員選任解任委員会（第1回）の招集の決定について
- 議案第3号 令和5年度評議員会（定時）の招集の決定について
- 議案第4号 令和4年度事業実績並びに資金収支決算について
- 議案第5号 次期役員（理事、監事）候補者の決定について

◆第2回理事会 令和5年6月27日（火）理事（出席9人 欠席なし）監事（出席2人 欠席なし）

### 議題

- 議案第1号 評議員選任・解任委員の補充選任について
- 議案第2号 会長（理事長）、副会長及び常務理事の選定について

◆第3回理事会 令和6年1月23日（火）理事（出席8人 欠席1人）監事（出席2人 欠席なし）

### 報告

- 報告第1号 令和5年度 中間監査（監事会）の報告について
- 報告第2号 令和5年度 法人監査指導における指摘事項改善状況の報告について

### 議題

- 議案第1号 役員、評議員、評議員選任・解任委員及び部会員等の費用弁償支給規程の廃止について
- 議案第2号 役員及び評議員の報酬等に関する規程の改正について
- 議案第3号 評議員選任・解任委員会規程の改正について
- 議案第4号 定款の一部改正について
- 議案第5号 令和5年度 第2回評議員会の招集について議題

◆第4回理事会 令和6年3月27日（水）理事（出席9人 欠席なし）監事（出席2人 欠席なし）

### 議題

- 議案第1号 令和6年度事業計画並びに資金収支予算について
- 議案第2号 理事の候補者の決定について
- 議案第3号 事務局長の解任について
- 議案第4号 事務局長の選任について
- 議案第5号 令和5年度第3回評議員会の招集について

## (2) 評議員会の開催（開催回数3回）

◆第1回（定時）評議員会 令和5年6月26日（月）（出席12人 欠席1人）

### 議題

- 議案第1号 理事及び監事の選任について
- 議案第2号 令和4年度事業実績並びに収支決算について

◆第2回評議員会 令和6年2月16日（金）（出席10人 欠席3人）

### 報告

- 報告第1号 令和5年度 中間監査（監事会）の報告について
- 報告第2号 令和5年度 法人監査指導における指摘事項改善状況の報告について

### 議題

- 議案第1号 役員、評議員、評議員選任・解任委員及び部会員等の費用弁償支給規程の廃止について

- 議案第2号 役員及び評議員の報酬等に関する規程の改正について
- 議案第3号 評議員選任・解任委員会規程の改正について
- 議案第4号 定款の一部改正について

◆第3回評議員会 令和6年3月28日(木)(出席10人 欠席3人)

報告

報告第1号 令和6年度事業計画並びに資金収支予算について

議題

議案第1号 理事の選任について

### (3) 評議員選任・解任委員会の開催(開催回数1回)

◆第1回評議員選任・解任委員会 令和5年6月15日(木)(出席3人 欠席なし)

議題

議案第1号 評議員の補充選任について

### (4) 監事会の開催(開催回数2回)

①監事会 令和5年5月24日(水) 監事2人による監査

(監査事項)

- ・令和4年度 事業報告並びに資金収支決算について
- ・その他、業務執行状況及び決算諸表等関係書類について

②監事会(中間監査) 令和5年11月17日(金) 監事2人による監査

(監査事項)

- ・令和5年度上半期 業務並びに会計(資金収支)について

### (5) 職員の資質向上と人材育成、内部連携

自主的な研修の推奨、研修会の開催や、県社協、地域主催の研修会に積極的に参加し、他職員への伝達を行いました。その中でも8月には、佐賀県社会福祉協議会を中心に、市町社協・CSO・行政・専門職団体・大学・社会福祉法人等佐賀県内の地域福祉関係者で構成する「第28回地域福祉実践研究セミナー実行委員会」と(特非)日本地域福祉研究所との共催で、「第28回地域福祉実践研究セミナー」が初めて佐賀県で開催され、鹿島市にも分科会の会場を設け「生活困窮者支援×地域」(コロナが生んだつながり)をテーマに関係機関が、「もう一度つながる」ことを意識した地域福祉実践の展開を図ることができました。



分科会での実践報告(かたらい3階)



分科会でのグループ討議(かたらい3階)

**(職場規律の確保の取組み)**

- ・ 毎日、職員朝礼を実施
- ・ 毎週月曜日に「週間業務調整会議」を行い、情報共有、事業や業務課題の整理
- ・ 毎週、火曜日は、定例の「会長決裁日」
- ・ 毎月1回、会長との打合せ（各係長から業務進捗状況の報告など）
- ・ 適時の「起案」、「復命」など、課内の「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」の徹底
- ・ 市内、市外を問わず、各種の研修会、イベント、集まり、会議等には積極的に出向く
- ・ ファイリングシステムの導入（文書管理、執務環境の整理）

**(6) 財政基盤の強化**

①社協会員の加入促進 【会費募集総額 5, 135, 750円】

一般会員と特別会員は、5～6月を推進月間として、区長会の協力を得て推進しました。

(一般会費1口500円 個人会費1口1,000円 団体会費1口3,000円 法人会費1口10,000円)

地区名	目標世帯数	一般会員	個人会員	団体会員	法人会員	金額	加入率
	戸	口	口	口	口	円	%
鹿島	5,006	4,581	3	-	-	2,293,500	91.6
能古見	1,016	872.5	15	-	-	451,250	88.8
古枝	839	840	5	-	-	425,000	101.3
浜	962	823	5	-	-	416,500	86.6
北鹿島	1,191	940	8	-	-	478,000	80.3
七浦	848	727	0	-	-	363,500	85.7
小計	9,862	8,783.5	36	-	-	4,427,750	89.8
社協事務局			114	78	36	708,000	
合計		8,782.9	150	78	36	5,135,750	

(前年度実績 5,134,550円)

②地域福祉活動促進のための財源確保 【寄付・売上等総額 7, 268, 294円】

②-1 寄付金の受付

(前年度実績 6,949,306円)

寄付金区分	件数	金額	前年度実績	
追善(香典返し)寄付金	176件	4,858,000円	187件	4,404,000円
篤志寄付金	23件	706,553円	24件	1,357,188円
福祉バス利用寄付金	86件	747,300円	44件	348,200円
福祉用具借用寄付金	0件	0円	3件	21,000円

②-2 ほっとスポット(常設バザー販売所)の設置

年間を通して、バザー用品の提供を受け付け、販売する常設コーナーを社協事務所隣に開設し、872,450円の売上実績を収めました。(前年度実績 751,530円)

収益金は、地域の趣味づくり、生きがいくくり、ボランティア活動支援、サロン推進事業などに有効に活用しました。

②-3 書き損じハガキ募集

市民からの書き損じハガキの募集に努め、83,991円の益金を上げました。

(前年度実績 67,388円) 社協事務所窓口に回収箱を設置しています。

～各種寄付金やバザーの売上金は、鹿島市の地域福祉のための貴重な財源です！～

- ・地域での見守り、助け合い活動や、高齢者の集いの場（サロン）の開設促進
- ・ボランティア活動、災害ボランティア活動への支援
- ・高齢者や障がい者、ケガをされている方への、一時的な福祉用具の貸出
- ・社協マイクロバス（福祉バス）の運行経費
- ・生活お困りごとに関する総合的な相談窓口（断らない支援） など



## 2. 社会福祉に関する活動への市民の参加のための支援

### (1) ふれあいいきいきサロンの設置推進と強化

地区の公民館などに定期的に集まり、高齢者と地区の協力者が一緒に介護予防や生きがい作りの活動を行う、高齢者や障がい者の居場所（サロン）に活動費を支給しました。令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に引き下げられ各サロンも徐々に活動を再開されてきた。依頼があったサロンには、介護予防運動や講話等出向いて実施しました。

#### ☆ふれあいいきいきサロン活動状況(会食会を含む) (R6.3.31 現在)

地区名	活動地区数 (うち会食会活動地区数)	会員数 (実人数)
鹿 島	5 8 ( 1 3)	1, 0 1 7
能古見	1 3 ( 5)	2 1 9
古 枝	7 ( 0)	1 5 4
浜	1 8 ( 5)	2 8 8
北鹿島	5 ( 2)	5 7
七 浦	9 ( 2)	1 2 4
その他	4 ( 0)	6 2
合 計	1 1 4 ( 2 7)	1, 9 2 1

#### ◎ふれあいいきいきサロンの効果

生きがいづくり ⇒自分の居場所があり、サロン活動のなかで自分の役割を持つことによって、充実感が得られます。

仲間づくり ⇒地域の仲間が集うサロンでは、悩みを共有したり、相談し合えたりし、そこが仲間づくりの拠点にもなります。閉じこもり防止・介護予防など。

### (2) 高齢者食生活改善事業（会食会）

地区の公民館などに定期的に集まり、地区の協力者や高齢者が一緒に調理を行い、会食（配食）をして、食生活の改善に努めた地区に助成を行いました。R5年5月に新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが5類に引き下げられ徐々に実施される会食会が増え出した。



食生活改善とサロンの連携

☆会食会活動状況（※地区別数はサロン参照）（R6.3.31 現在）

区 分	活動実施数(延べ)	参加人数(延べ)
鹿島市内	164	2,482

(3) 愛の一声ネットワーク実践区の設置推進（鹿島市からの委託事業）

一人暮らしの高齢者等に対して、隣り近所の方が、日常的な見守りや声かけによる安否確認等の見守り活動を実施する部落（行政区）に活動費を助成しました。

☆愛の一声ネットワーク活動地区別設置状況（R6.3.31 現在）

地区名	活動地区数	ネットワーク数	協力員数(延べ)
鹿 島	8	43	128
能古見	2	4	12
古 枝	1	5	13
浜	3	7	23
北鹿島	1	1	3
七 浦	7	39	119
合 計	22	99	298

(4) 老人福祉センター活用事業

市民交流プラザ「かたらい」の集会室を利用し、隔週水曜に「趣味づくり健康づくり教室（日本舞踊教室）」を開催しました。32期生18人（令和5年6月～令和7年5月）

3. 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成

(1) 広報誌「社協だより」の発行

年2回（7、12月）、全世帯（区長会の協力）、関係機関、団体に社協と老人クラブ合同の情報誌を配布しました。

(2) ホームページの運営

社協のホームページで、行事開催の案内や報告など様々な取り組みについて、情報提供を行いました。今後は、内容を充実させ、更に改善を図ります。



鹿島市社協公式サイト

(3) 鹿島ケーブルテレビ（ネット鹿島）を活用した広報

鹿島ケーブルテレビの「週刊かしまんニュース（安心安全ステーション）」に定期的に職員が出演し、社協の事業紹介やボランティア団体の紹介などを行い市民への周知啓発に努めました。

(4) 福祉団体等への助成事業

「赤い羽根共同募金」の配分金を活用し、1,035,000円を福祉団体等へ助成しました。

事業区分	助 成 団 体	助成金額（円）
老人福祉事業	①鹿島市老人クラブ連合会	70,000
児童福祉事業	②鹿島市子ども会連絡協議会	40,000
	③鹿島市スポーツ少年団	20,000
障がい児、障がい者福祉事業	④地域活動支援センターひまわり	20,000
	⑤鹿島市手をつなぐ育成会	25,000

	⑥古枝身障者協会	40,000
民生児童活動事業	⑦6地区民生児童委員連絡協議会	360,000
更生保護事業	⑧鹿島保護区保護司会	10,000
ボラ活動育成事業	⑨鹿島手話サークル	60,000
	⑩鹿島防犯・安全パトロール	30,000
	⑪NPOこころ	180,000
	⑫かしまにこにこクラブ	180,000
合 計 (12団体)		1,035,000

#### (5) 地域に対しての福祉活動助成事業

「地域福祉たすけあい募金」を活用し、1,597,000円を21行政区(部落)等に対し助成し、地域のコミュニティ活動、地域づくりを支援しました。

- ・補助率は、事業費の80%が上限、助成金額は、上限10万円まで
- ・原則として、助成を受けられるのは「4年」に一度(3年空ける)としています。
- ・鹿島市通学路等へ防犯カメラを設置する場合は、1台につき2万円を助成。(※区長会様からの要望による特別措置)

#### ○助成対象事業

- ・公民館や地域の集いの場への施設整備、備品整備
- ・伝承芸能振興のための備品、用具の整備
- ・防犯灯の設置や更新(LED灯)など、地域の安全・安心確保への取組み
- ・その他、地域コミュニティの充実、地域のまちづくりに資すると認められる事業

#### ○助成事業の状況(令和5年度)

申請者	事業内容	助成額
①城内区	防犯灯整備(LED灯への取替)	63,000円
②新町区	公民館の備品整備(会議用テーブル、座椅子等)	99,000円
③納富分区	公民館の備品整備(会議用テーブル)	100,000円
④早ノ瀬区	公民館の備品整備(会議用テーブル、座椅子)	100,000円
⑤南川区	公民館バリアフリー工事(共同トイレの仕切り設置)	96,000円
⑥土穴区	防犯灯整備(LED灯への取替)	84,000円
⑦白鳥尾区	公民館の備品整備(エアコン設置)	100,000円
⑧鮎越区	公民館の備品整備(会議用座椅子)	41,000円
⑨新方区	防犯灯整備(LED灯への取替)	100,000円
⑩庄金区	伝承芸能を継承するための備品整備(祇園祭用提灯)	100,000円
⑪南舟津区	防犯灯整備(LED灯への新設)	83,000円
⑫中町区	伝承芸能継承のための備品整備(祇園祭用提灯)	100,000円
⑬浜新町区	公民館の備品整備(会議用座椅子)	41,000円
⑭森区	公民館の備品整備(パソコン、プリンター等)	100,000円
⑮新籠区	公民館の備品整備(エアコン設置)	100,000円
⑯古城区	公民館の一部改修(外壁塗装工事)	100,000円

⑰飯田区	防犯灯整備（LED灯への取替）	100,000 円
⑱北鹿島地区 防犯協会	見守り隊の制服整備（スタッフ用ビブス）	30,000 円
⑲横田区	防犯カメラ設置事業	20,000 円
⑳馬渡区	防犯カメラ設置事業	20,000 円
㉑小舟津区	防犯カメラ設置事業	20,000 円
合 計（21団体）		1,597,000 円

### ○助成事業（例）



北鹿島防犯協会：見守り隊のスタッフ用制服整備



鮎越区：公民館の備品整備（会議用座椅子）



中町区：伝承芸能継承のための備品整備（提灯）



鹿島地区防犯協会：通学路への防犯カメラ設置（馬渡区）

### ○「まちづくり懇談会」の開催



まちづくり懇談会（母ヶ浦地区）

「区長会」や「民生児童委員」など地元との連携で「買物応援バス」のエリア拡大など地域課題や地域づくりを話し合う「まちづくり懇談会」を開催しています。

- ・行政区、グループなど規模、参加人数を問いません
- ・地域課題や「お困りごと」等について話し合います
- ・地域課題やニーズ、地域資源（地域の財産）を発掘して対策を考え地域福祉の充実につなげます
- ・健康体操や医療

#### 4. 社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

##### (1) 福祉用具貸付事業

高齢者や障がい者など、在宅介護の負担軽減のため福祉用具の貸出を行いました。

☆福祉用具の保有と利用状況 (R6.3.31 現在)

福祉介護器具		保有数	貸出数	在庫数
車イス	自走用、介助用	18	6	12
歩行器・杖	歩行器（交互・車輪付き）、押し車、一本杖、四点杖、シルバーカー	14	2	12
合計		32	8	24

※介護用ベッドは、現在在庫がなく、貸出中の機器も老朽化し、安全性の確保が困難となっている事や、介護保険サービスの福祉用具貸与で対応できるため、令和5年度からは新規の貸与を中止し、介護用ベッドの取扱いを廃止しました。

##### (2) おもいやり推進事業（福祉用具等リサイクル斡旋事業）

家庭で役目を終えて不要となった福祉用具などを「譲りたい人」と福祉用具などが「必要な人」をコーディネートし、福祉用具などのリサイクルを進めるとともに、福祉用具の普及と在宅介護の軽減を図りました。

42件（押し車、炊飯器、洗濯機、チャイルドシート等）のコーディネートが成立。

##### (3) あんしんキット配布事業

独居高齢者等が、緊急連絡先などの情報を専用容器に入れ、冷蔵庫（設置場所の特定）に保管してもらう事で、緊急時の救急活動（救急車出動時等）などに活用されています。

☆あんしんキット地区別配布数 (R6.3.31 現在)

地区名	配布数
鹿島	527
能古見	127
古枝	55
浜	89
北鹿島	60
七浦	114
合計	972



専用容器と冷蔵庫に貼るシール

##### (4) 日本郵便株式会社との「フードバンク事業等に関する協定」締結

令和4年2月22日に、鹿島市内の郵便局（7局）と、フードバンク事業等について、連携して事業を推進するための協定を締結しました。各郵便局に、「物品提供受入ボックス」を設置し、家庭から提供できる食料品や、卒業して着なくなった制服、バザー用品等を市民から提供してもらい、生活困窮者の支援や、バザー用品販売による地域福祉活動に活用しました。

郵便局名	フードバンク	制服・学用品	バザー用品	合計
鹿島	21	0	6	27
泉通り	44	0	98	142
浜	0	0	0	0
乙丸	0	3	1	10
七浦	0	0	0	0
能古見	3	0	43	46
祐徳神社前	6	0	25	31
合計	74	3	173	256

(R5.4~R6.3)



鹿島市役所での締結式



各郵便局に設置しているボックス

## 5. 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡

### (1) 民生委員児童委員との連携

毎月の民生・児童委員会（会長会、6 地区毎の例会）へ出席し、社協事業の情報提供や意見交換、協力要請等を行いました。

鹿島市民生児童委員連絡協議会（地区会長会）運営事業の事務局（会計）を担当し「民生委員互助共励事業」の窓口として、見舞金等の必要な手続きを行いました。



民生児童委員がフードバンクの支援

### (2) 保健・医療・福祉との連携

地域包括ケアネットワーク会議への出席（年3回）や、鹿島市要保護者等対策地域協議会実務者会議への出席（隔月）等を通して、市行政や地域包括支援センターとの連携を図りました。

### (3) 県社協及び県内社協と連携

県社協主催の研修会等への出席や、県社協からの個別訪問懇談等を通して連携を図りました。佐賀県都市社協連絡協議会（県内10市社協）及び杵藤地区社協連絡会（3市4町）において、各市町社協との連絡調整や情報交換、意見交換を行い、連携強化に努めました。



県社協との個別ミーティング



令和5年7月佐賀豪雨災害支援で連携協力

## 6. 共同募金事業への協力

### (1) 赤い羽根共同募金運動の推進 【募金総額 5,577,759円】

区長会の協力を得て推進する戸別募金をはじめ、法人募金、街頭募金、資材募金、企業協賛募金、学校募金等の各種募金活動を10～12月の期間で推進しました。

☆一般戸別募金の実績（1世帯あたり目標額350円）

地 区	目標世帯数	目 標 額	実績世帯数	実 績 額
	戸	円	戸	円
鹿 島	5,006	1,752,100	4630.7	1,620,750
能古見	1,016	355,600	908.5	320,425
古 枝	839	293,650	829.9	290,480
浜	962	336,700	866	303,100
北鹿島	1,191	416,850	922.3	322,800
七 浦	848	296,800	743.7	260,300
合 計	9,862	3,451,700	8899.3	3,117,855

(前年度実績 3,135,175円)

☆戸別募金以外の実績

募 金 種 別	件 数	実 績 額	備 考
	件	円	
学 校 募 金	16	188,379	小・中・高校及び保育園・幼稚園
法 人 募 金	130	694,318	市内各事業所等
資 材 募 金		1,184,250	そば・のり等の県産品、バッジ・ボールペン等
街 頭 募 金	1	172,845	市内5店舗
企業設置募金箱		57,815	市内事業所等
篤 志 募 金	5	37,228	古枝地区自主防災、DXフェア
イベント募金等	18	125,069	古枝地区自主防災講習会、DXフェア
計		2,459,904	

(前年度実績 2,149,939円)



市内商業施設前での街頭募金活動



佐賀バルーンフェスタ ナイトファンタジー  
での広報パレード



(2) 地域福祉たすけあい募金運動の推進 【募金総額 2,274,033円】

区長会の協力を得て推進する一般家庭からの「戸別募金」や、個人・団体からの「一般篤志募金」を、11～12月の期間で推進しました。

☆戸別募金実績（1世帯当たり目標額250円）

地区名	目標世帯数	目標額	実績世帯数	実績額
	戸	円	戸	円
鹿島	4,965	1,241,250	4,687.6	1,171,900
能古見	1,021	255,250	915.5	228,875
古枝	859	214,750	830.3	207,580
浜	960	240,000	866	216,500
北鹿島	1,189	297,250	704	176,000
七浦	853	213,250	727	181,750
小計		2,461,750	8,730.4	2,182,605
預金利息、一般篤志募金等			9	91,428
合計				2,274,033

(前年度実績 2,311,020円)

7. 福祉サービス利用援助事業（安心サポート事業）

判断能力が不十分な認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者を対象に、福祉サービスの利用支援や日常的な「金銭管理支援」を行いました。

新規契約締結4件（内訳：認知症高齢者3件・知的障がい者1件）、解約件数2件の実績を収めました。市民や関係機関からの制度利用に関する相談や、サービス利用者への相談援助を行いました。

<相談件数> (R6.3.31現在)

対象者 事項	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	計
相談援助件数	120件	247件	133件	1件	501件

<利用者数> (R6.3.31現在)

対象者 事項	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	計
利用人数	6人	6人	7人	0人	19人

<利用者宅等への訪問支援回数（専門員2人、生活支援員1人による）>

対象者 事項	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
支援援助件数	72件	103件	109件	284件

(R5.4.1～R6.3.31)

(特記事項) この事業は、ご利用者様の「通帳、印鑑」などを預かる場合もあり、全国的に、職員や支援員による、横領事件やトラブルの発生が散見されます。鹿島市社協では、複数の職員でのチェック体制、通帳や印鑑の適正管理、職員、支援員のモラルの維持、向上に常に努めています。

## 8. 福祉資金貸付事業

### (1) たすけあい貸付資金貸付事業（鹿島市社協扱い分）

- ・低所得世帯等に対し、10万円を限度として貸付を行い、生活の安定を図りました。
- ・相談受付件数20件、新規貸付0件、完済0件の実績となりました。
- ・貸付に至らなかったケースにおいても、家計や就労に関する支援を行いました。
- ・現貸付件数は5件で、返済の滞納者に対しては、随時督促を行いました。

### (2) 緊急ライフサポート事業 絆資金貸付事業（鹿島市社協扱い分）

- ・早急に金銭的支援が必要と判断した、緊急性の高い世帯等に対し、1万円を限度として貸付を行いました。
- ・貸付件数延べ8件（実人数6人）に6万5千円の貸付を行い、完済8件の実績となりました。現貸付件数は6件です。
- ・貸付に至らなかったケースにおいても、家計や就労に関する支援を行いました。



### (3) 生活福祉資金状況（県社協扱い分）

- ・低所得世帯に対し各々の状況に応じた資金の貸付を行い、福祉や社会参加の促進を図りました。
- ・コロナ特例貸付返済等に関する相談件数は80件でした。
- ・他の相談受付件数39件、新規貸付0件、完済2件の実績でした。
- ・返済の滞納者の状況把握について、県社協と連携を図りました。

☆相談内容（R5.4.1～R6.3.31）

利用資金名	相談受付件数
総合支援資金	12
福祉資金	9
緊急小口資金	14
教育支援資金	3
臨時特例つなぎ資金	0
不動産担保型生活資金	0
その他	1
コロナ特例貸付	80
合計	119



### ※特例貸付（新型コロナ関係）

新型コロナウイルス感染症の発生による「休業」や「失業」等により、一時的又は継続的に収入が減少した世帯を対象に、「緊急小口資金」及び「総合支援資金」の特例貸付の受付窓口を令和2年3月25日から令和4年9月30日まで開設しました。

- ・緊急小口資金（休業された人向け）→10万円～20万円以内
- ・総合支援資金（失業された人向け）→15万円～20万円以内×3か月以内

また、令和5年1月から「緊急小口資金」「総合支援資金」の償還開始が始まり、償還困難な方に対し、「償還免除」「償還猶予」の相談や手続き支援をおこないました。

☆取扱状況 貸付実人員245人

緊急小口資金	203 件	33,100,000 円
総合支援資金（初回）	155 件	85,950,000 円
〃（延長）	38 件	20,400,000 円
〃（再貸付）	40 件	22,150,000 円
貸付件数（計）	436 件(245 人)	161,600,000 円

(R2.3.25～R4.9.30)

☆償還状況

	償還完了	償還免除	償還猶予	返済中 (滞納なし)	返済中 (一部滞納)	全額滞納	未確定
緊急小口	6 件	79 件	12 件	17 件	51 件	38 件	—
総合（初回）	1 件	75 件	12 件	15 件	27 件	25 件	—
〃（延長）	0 件	11 件	4 件	7 件	1 件	15 件	—
〃（再貸付）	0 件	1 件(死亡)	※据え置き期間のため未確定				39 件
合計	7 件	166 件	28 件	39 件	79 件	78 件	39 件
割合（%）	2%	38%	6%	9%	18%	18%	9%

(R6.3.31 現在)

(4) 福祉おもいやり特別資金貸付事業（鹿島市保険健康課長寿社会係扱い）

虐待など特別な理由がある高齢者に対し、50万円を限度として貸付を行い、福祉の増進に資する制度です。令和5年度は、相談受付件数0件、現貸付件数は0件でした。

# 地域共生社会の実現に向



## 9. 鹿島市ボランティア活動センター運営

### (1) ボランティア活動に関する相談窓口の整備

ボランティアについての問い合わせや相談に応じ、「ボランティア人財バンク」や、「市ボランティア連絡協議会」への登録・加入勧奨を行いました。(新たに8団体が新規加入)

また、社協だよりにボランティアに関する情報を掲載しボランティア募集(個人ボランティア、傾聴ボランティア)普及啓発を行いました。

(R6. 5. 13 現在)

区 分	登録者(団体)数	昨年度
ボランティア人財バンク	70人	68人
市ボランティア連絡協議会	47団体	39団体



### (2) ボランティア活動の支援

住民主体の支え合い活動を推進する上で、ボランティア活動は、地域を支える大きな力となっています。そこで、「鹿島市ボランティア連絡協議会」の活動など、円滑なボランティア活動を推進するため、各種ボランティア養成の取組みを行い、地域の担い手となる市民ボランティア育成に努め、「連絡協議会」への加入団体の拡大をめざしました。会員同士の交流と各市町の活動内容を学びに各市町持ち廻り研修会にも参加しました。

また、これからの、鹿島のまちづくりを担う子ども達への「福祉教育」の支援として、鹿島市教育委員会や市内小中学校と連携し「福祉教育」のプログラム(メニュー開発)の提案やボランティア体験学習の実施など、若年層のボランティア養成に努める取組みを行いました。

個人ボランティアの登録制度(人財バンク)では、社協だより等で傾聴ボランティアの募集を行い、2人の方に登録いただき、そのうち1人を福祉施設に紹介しました。今後は様々なニーズに対応した「ボランティア養成講座」を開催していきます。

高齢者等の災害弱者支援の一環として、頻発する大規模災害に備え、「災害ボランティア活動」を中心に、「災害発生時にすみやかに「災害ボランティアセンター」の運営ができるよう、体制づくりに努める必要があります。令和5年度は、7月に豪雨災害が発生し唐津市浜玉地区、佐賀市富士町、福岡県久留米市は大きな被害がでました。被災地では、市民組織と連携して、迅速に「災害ボランティア活動」が行えるように鹿島市社協から職員を派遣し支援活動に協力しました。



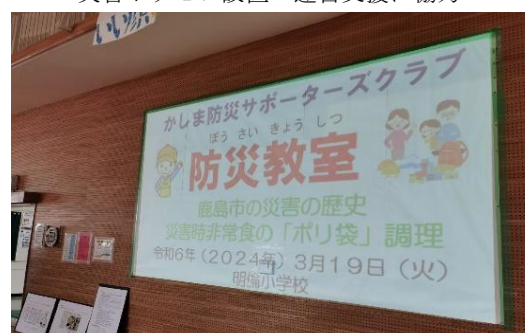
はばたけ！ボランティア研修会に参加



災害ボラセン設置・運営支援に協力



明倫小学校での防災教室を共催(かしま防災サポーターズクラブ)



講師を務め、若年層のボランティア養成を図った

## 令和6年度 鹿島市ボランティア連絡協議会 登録団体

令和6年(2024年)5月現在

No.	団体・グループ名	加入	会員数	備 考
1	鹿島市婦人ボランティア五五会	1	15	会長:武藤恭子 令和元年「緑綬褒章」受章
2	鹿島手話サークル	1	21	代表:古川佐知子
3	健康づくり趣味づくり 日本舞踊教室	1	20	講師:武藤恭子(藤間松娘) ※社協主催
4	ボランティアグループ ひがたが丘	1	7	代表:松本ユミ子
5	宝円寺佛教婦人会	1	33	代表:岩永ミチエ 社協買物応援バスボランティア等
6	風のガーデンの会	1	21	代表:久原正之
7	サークル・エコ通信	1	14	代表:宮津彰子鹿島市報の録音ボランティア
8	若柳流 東会	1	8	代表:東江見子
9	鹿島市子ども会連絡協議会	1	24	代表:馬場照夫
10	鹿島ローターアクトクラブ	1	5	代表:馬場秀一朗
11	一般社団法人 鹿島青年会議所	1	24	代表:中尾将之
12	藤間流 智賀穂会	1	20	代表:戸上節子
13	かしま防災サポーターズクラブ	1	177	代表:徳永信行
14	鹿島ママちゃんズ	1	16	代表:宮田真美 子育て世代グループ/お譲り会等開催
15	鹿島小学校防犯ボランティア	1	39	代表:北島勝郎
16	ボランティア DIWA(ディーワ)	1	5	代表 風間扶美子
17	鹿島市老人クラブ連合会	1	60	会長:馬場喜彦 ※老連役員で登録
18	社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会	1	30	役員(理事、評議員、事務局)
19	鹿島市食生活改善推進協議会	1	101	会長:石田雅子
20	鹿島ITクリエイト	1	2	代表:岩永信二/DX事業
21	基聖「寛蓮」顕彰会	1	5	代表:藤永勝之/囲碁を活かしたまちづくり
22	かしまこどもフェス実行委員会	1	18	代表:森田駿
23	鹿島市レクリエーション協会	1	92	会長:山口清美
24	特定非営利活動法人 NPOこころ(もりの家)	1	5	代表理事:中村雄一郎
25	(株)福祉サービスこころ	1	5	社長:木下高子
26	鹿島水の会	1	20	代表:西村宰
27	鹿島市民生児童委員協議会(6地区)	1	96	民生委員・児童委員、主任児童委員
28	鹿島市民生児童委員連絡協議会(会長会)	1	6	民生児童委員(6地区会長)
29	鹿島DX(デジタル・トランスフォーメーション)研究会	1	43	会長 白川幸一郎
30	株式会社ダイナム 鹿島店	1	15	企業ボランティア(窓口:藤原成樹)
31	明倫小学校子ども見守り隊	1	84	代表:森田実
32	Brew KASHIMA(市民サッカークラブ)	1	25	代表:樋口義春
33	一般社団法人 鹿島デジタル社会推進協会	1	12	代表理事 岩永信二
34	ゆめさが大学鹿島校ボランティアグループ	1	15	ゆめさが鹿島校のメンバー
35	一般社団法人 スマイルキッズ鹿島支部	1	3	代表:富永寿子 子育て支援グループ
36	鹿島防犯・安全パトロール	1	15	代表:森崎俊博
37	104 FOCUS GYM	1	1	代表:家永俊弘(ジム経営)
38	ボランティアひまわり	1	5	代表:今田羊一「ひまわり食堂」子ども食堂
39	公益財団法人 佐賀創造未来基金	1	5	代表理事:山田健一郎
40	かしま「ほとめき会」	1	40	代表:松尾征子(事務局)
41	本城・中木庭 寿老人クラブ	1	39	会長:坂口政昭 ※老連未加入
42	かしま にこにこクラブ(大手地域食堂)	1	4	代表:小笠原恭子/副代表:洲上貴志
43	社会福祉法人みらいのそら多機能支援センターそら	1	19	センター長 宮崎恵子/社協就労事業連携
44	司法書士法人アドヴァンス鹿島事務所	1	6	所長:堀政海(司法書士、行政書士)
45	鹿島商工会議所女性会	1	30	会長:森千枝子/榊有明清掃社
46	鹿島市連合青年団	1	6	団長:竹下宏紀 ※事務局/田澤記念館
47	地域応援くらぶ「アクトフレンズ」	1	10	尾崎正見/地域活性化イベント開催
48				
49				
50				
合 計(団体登録)		47	1,266	延べ人数(個人で複数の団体への加入あり)

○個人ボランティア

個人会員(人財バンク登録者)

70人

## 10. 生活困窮者自立相談支援事業（鹿島市からの委託事業）

「生活お困りごと相談」として、対象者を限定せず、生活全般の相談窓口として実施し、相談受付件数延べ4,279件、相談者数延べ1,363人（相談実人員351人）の実績を収めました。

令和2年3月末から始まった「生活福祉資金コロナ特例貸付」が、令和4年9月で終了し、令和5年1月から償還開始となったため、特例貸付利用者からの問い合わせや、返済困難者からの相談が多く寄せられました。

新規相談者の相談内容で多かったのは、「お金」「生活」に関する相談で、新型コロナウイルスの影響による家計悪化が長引いていたり、物価高騰のあおりを受け生活に困窮されたりしている方からの相談が増えています。また、ひとり親世帯や多子世帯、非正規雇用等で、慢性的な生活困窮に陥っている世帯からの相談も変わらず多いです。相談者の性別は女性がやや多い傾向。年齢層は幅広く、どの世代からも相談が寄せられており、内容も多岐に渡っています。

相談経路は、本人や家族、行政機関からの相談が多く、福祉課や地域包括支援センターの相談員と連携して支援にあたる事が多かったです。関係機関と連絡調整を図り、他機関が支援に行き詰ったケースの受け皿としての役割も果たしました。

### ☆相談受付件数（延べ件数）

相談方法	件数
電話	1,473
メール	771
来所	1,412
訪問	623
合計件数	4,279

※社協の相談窓口は、「生活お困りごと相談」として、対象者を限定せず、「生活全般の相談窓口」として開設しています。

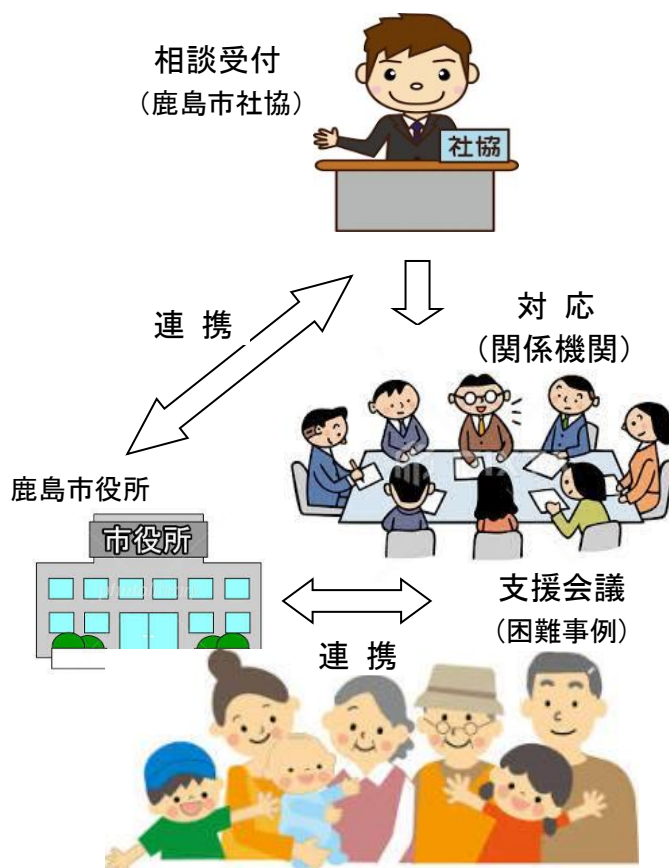
### ☆新規相談者 性別年代別内訳

（単位：人）

性別	人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	不明	合計
男性	43	0	9	14	18	6	8	22	28	105
女性	58									
不明	4									
合計	105									

### ☆新規相談者 相談内容別件数（重複有）

相談内容	件数
仕事	31
生活	42
健康	23
人間関係	5
家族	17
お金	55
住まい	18
その他	46
合計件数	237



### ☆新規相談者 相談経路

相談経路	件数
本人	40
家族	14
行政機関	37
地域	1
関係機関	10
その他	3
合計件数	105

### (1) フードバンク事業（食料支援）

生活困窮世帯（登録世帯 116 世帯）に、年間 647 回（延べ）の食料支援をおこない、困窮世帯の生活安定と食品の廃棄（食品ロス）解消をめざしました。

食料については、広く市民や団体から食料品等の寄付を受け付け、「鹿島ロータリークラブ様」、「NPO 法人 フードバンクさが様」、「セブンイレブン・ジャパン様」等の他、赤い羽根共同募金等も活用し、米、缶詰、インスタント食品、レトルト食品、お菓子等を随時提供していただき、事業の充実に資することができました。



ダイナム鹿島店様から食料品の寄付

### (2) 制服・学用品バンク事業

制服等の学用品購入が困難な生活困窮世帯に対し、地域住民から寄付された制服や学用品等を支給し、生活困窮世帯の経済面での負担軽減や、リユースによる循環型社会の推進を図りました。

(R5 実績／28 件配布)

### (3) ふれあい地域食堂

「鹿島市生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム整備事業」の助成を受け、鹿島市食生活改善推進協議会の支援により、フードバンク事業の登録者世帯（生活困窮者）の希望者（延べ 526 世帯 711 人）に対し、11 月～2 月中の毎月 1 回（全 5 回）、手作りのお弁当を配布しました。



### (4) 入学・進級支援事業

「鹿島市生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム整備事業」の助成を受け、子どもの入学進級を控え、緊急的に支援が必要な生活困窮世帯に対し、体操服や通学バッグ等の必要な学用品等を提供し、児童が安心して入学進級できる環境を整えました。

その結果、不登校傾向の児童が新学期から登校できたり、コロナ禍等で収入が減り学用品購入に悩む保護者の負担軽減につながりました。(R5 年度実績／21 件)

### (5) お米 DE 元気！子育て応援プロジェクト

政府備蓄米を活用し、市内在住の子育て世帯へ食育を目的とした白米等の無償配布を行った。

対象者に所得制限等は設けていなかったが、出来るだけ困窮世帯の子供たちへ届けられるように民生・児童委員や福祉課と情



報を共有し、事業の周知を図りました。(全3回/420人へ配布)

## (6) 日用品配布事業

赤い羽根共同募金の助成を受け、家計に余裕の無い多子世帯・子育て世帯に対し、日用品の支給を行いました。(R5実績/50世帯配布)



### 1.1. 生活困窮者就労準備支援事業 (鹿島市からの委託事業)

生活困窮者自立支援相談者の中で、就労に向けての準備が必要な方や、就労継続・定着のための支援が必要な方など6人(20代男性5人、30代男性1人)の方に対し、延べ206回の支援を行いました。

具体的には、定期的な面談や訪問、メール(ライン)のやり取りを行い、本人の希望を聞きながら、状態に合わせて自立チャレンジサポート事業や中間的就労事業所の利用、一般就労先との調整等をおこない、本人の就労意欲の向上と、仕事の定着支援に努めました。

その結果、1人が一般就労、1人がB型作業所、4人が自立チャレンジサポート事業利用につながりました。一般の事業所に就職した方に対しても定着支援を行い、仕事にも慣れて就労が定着し、社会復帰を果たされています。

#### (1) 自立チャレンジサポート事業

生活困窮者就労準備支援事業への申込者で、就労体験を希望する方5人(20代男性4人、30代男性1人)に対し、週1~2回2時間程度、ボランティア活動や就労体験など、自立のために必要な活動に取り組むことに対して交通費程度の手当てを支給し、生活困窮者や、就労に不安を抱える相談者の就労意欲向上を図りました。

具体的には、米(フードバンク用)仕分け作業、書類整理、福祉作業所(アメリカパン等)での作業体験等を行いました。今後は協力企業、事業所の発掘にも努めていきます。

### 1.2. 生活困窮者家計改善支援事業 (鹿島市からの委託事業)

生活困窮者自立支援相談者の中で、家計改善支援が必要な方9人(20代男性1人、20代女性1人、30代女性1人、40代女性3人、50代男性1人、50代女性1人、高齢女性1人)に対し、延べ218回の支援を行いました。

具体的には、年金日や給料日に合わせて、定期的な面談や訪問、メール(ライン)のやり取りにて、生活状況や家計の聞き取りを行い、ライフラインや税金の滞納や負債が増えていないか確認し、生活費の仕分けや、支払いの優先順位等のアドバイスをおこないました。また、必要時には、税務課や銀行等に同行したり、奨学金などの手続き支援を行い、世帯の家計改善に向けた支援を行いました。

その結果、それぞれの世帯で生活全般を含めて見直しを行うことができ、収支の改善や家計の再生につながりました。



### 1 3. 生活困窮者支援機能強化事業（鹿島市からの委託事業）

「コロナ禍」を契機に潜在化した生活困窮者など「支援を必要とする世帯」へ市内の各種団体（計9団体）と連携して支援を行った。

○事業詳細

（単位：円）

助成団体名 (代表者名)		事業内容	助成額	助成対象経費内訳 (総事業費)
1	鹿島地区民生児童委員協議会 (藤家耕子)	民生児童委員(28人)が地区内の多子家庭、母子家庭、父子家庭、独居老人、生活保護者、就学支援対象者等へ1,650人のパックご飯とレトルトカレー(セット)を配布し支援を行った。	500,000	・配布支援品 468,512 ・チラシ印刷、封筒 3,903 ・交通費等 28,000 (計 500,415)
2	能古見地区民生児童委員協議会 (植松直樹)	民生児童委員(19人)が地区内の70歳以上の一人暮らし世帯(107世帯)、父子・母子家庭世帯(12世帯)、80歳夫婦のみ世帯(16世帯)計135世帯へ生活用品を配布し支援を行った。	230,000	・配布支援品 231,613 (計 231,613)
3	古枝地区民生児童委員協議会 (小野原利幸)	民生児童委員(11人)が地区内の高齢者や経済的支援が必要と思われる66世帯へ食品、日用品等をセットにして配布し支援を行った。	230,000	・配布支援品 231,060 (計 231,060)
4	浜地区民生児童委員協議会 (小森厚子)	民生児童委員(11人)が地区内の母子世帯、多子世帯、独居世帯、高齢者世帯の130世帯へインスタントラーメンと日常生活品のセットを配布し支援を行った。	230,000	・配布支援品等 228,418 ・チラシ印刷 2,400 (計 230,818)
5	北鹿島地区民生児童委員協議会 (北村久代)	民生児童委員(11人)が地区内の母子世帯、父子世帯、多子世帯、高齢者世帯、障害者世帯の115世帯へ米(5kg)を配布し支援を行った。	230,000	・配布支援品等 230,000 (計 230,000)
6	七浦地区民生児童委員協議会 (野中由美子)	民生児童委員(13人)が地区内の高齢者世帯、独居世帯、買い物弱者へ全3回に分けて1回目:日常生活品(110人)、2回目:弁当(118人)、3回目:日用品とインスタントラーメンセット(110人)を配布し支援を行った。	230,000	・配布支援品 228,866 ・チラシ印刷 2,000 (計 230,866)

7	鹿島市食生活改善推進協議会 (石田雅子)	かたらいキッチンスタジオにて全5回(鹿島ふれあい地域食堂)を開催し事前に社協が関わっている生活困窮されてる市民、高齢者世帯、ひとり親世帯を主な対象者とし登録してもらい受け取りに来てもらう形式で支援を行った。	370,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材費</li> <li>・各種消耗品</li> <li>・チラシ印刷</li> <li>・謝金、交通費</li> <li>・調理器具購入 (計 395,721)</li> </ul>
8	多機能型支援センター「そら」 (宮崎恵子)	児童発達支援・放課後等デイサービス・就労継続支援 B 型・相談事業所の多機能型で支援を行い様々な障がいのある方々が通所し、それぞれの特性や個性に合わせて社会への自立に向けた活動を日々行っている。令和5年9月から就労に不安がある引きこもりの人を受け入れ、施設内のカフェで就労に慣れるための作業を体験し一般就労へ移行できるように支援を行った。	200,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種消耗品 10,906</li> <li>・謝礼交通費 5,000</li> <li>・備品購入費 185,127 (計 201,033)</li> </ul>
9	一般社団法人 スマイルキッズ (鹿島:富永寿子)	ひとり親世帯やプレひとり親世帯の中には生活の為に親は年末年始も仕事で子どもだけで留守番している家庭も多いことからアウトリーチ型宅食事業「とどけYELL」登録世帯(13軒分)を対象におせち配布イベントを企画し実施した。	180,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布支援品 167,700</li> <li>・チラシ印刷 7,419</li> <li>・備品購入費 6,677 (計 181,796)</li> </ul>
	合 計	助成金交付団体(計9団体)	2,400,000	

<活動の様子>



1. 鹿島地区民生児童委員協議会



7. 鹿島市食生活改善推進協議会



8. 多機能型支援センター「そら」

## 1 4. 生活支援体制整備事業（鹿島市からの委託事業）

### ○事業の趣旨

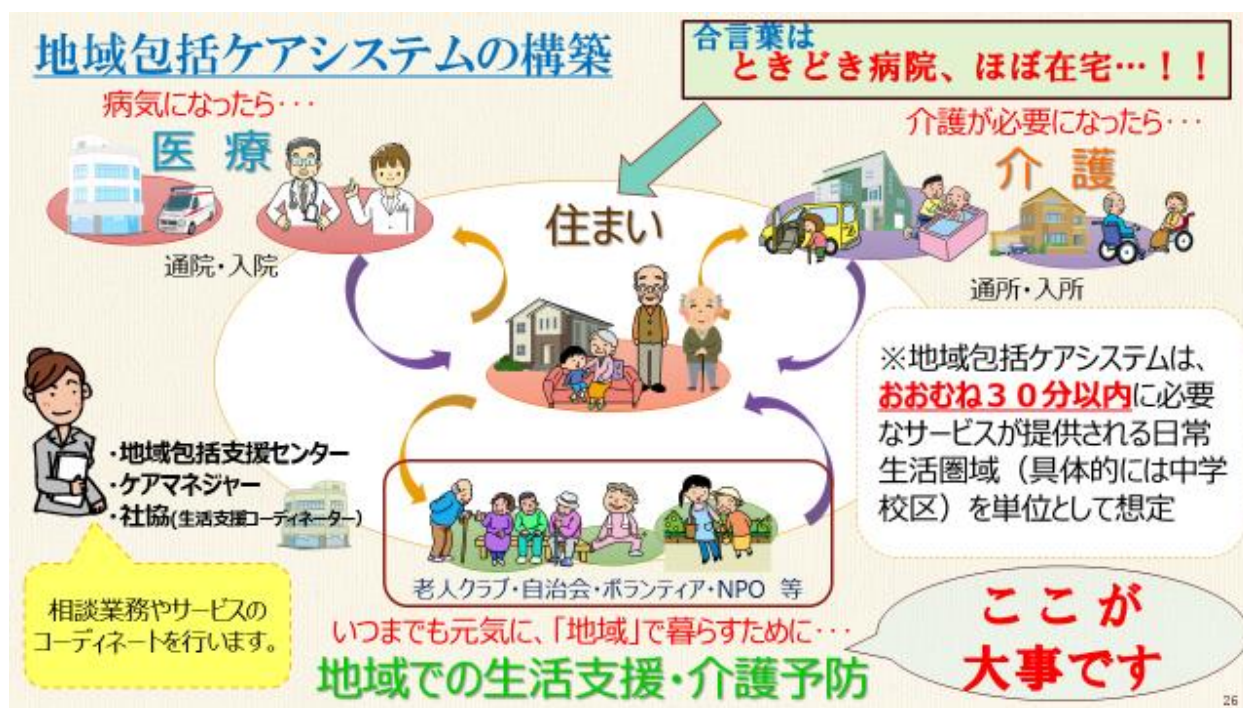
地域主体、住民主体の「福祉のまちづくり」をめざして（行政等の公的制度だけでなく）



- ・既存の住民団体やグループの「生活支援」や「介護予防サービス」の状況を把握する
- ・高齢者等の要望や生活上の「お困りごと」、「地域課題」を把握する
- ・介護予防や生活支援の「担い手」となるボランティアや住民組織を育成する
- ・住民団体への働きかけや、新たな「生活支援サービス」を創設する（地域資源の開発）



- ・新しい生活圏「地域包括ケアシステム」の構築をめざす（下記：イメージ図）



### (1) 第1層の活動（鹿島市全体を視野に入れた活動）

- ・平成28年10月1日に鹿島市より事業受託し平成29年10月27日に第1層協議体会議を開催し、関係機関、団体等との連携を図り、介護予防・生活支援の担い手の育成、サービスや地域資源の開発等を推進した。
- ・令和5年5月に新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたので、会議等も通常開催した。

### (実施状況)

No.	事業区分	内 容	件数
1	第1層、第2層協議体の開催(会議・研修等)	<p>関係団体や地域住民で組織された「第1層協議体」のメンバー(委員)で奇数月に定例会を行い、高齢者の「生活支援」や「介護予防サービス」の体制整備に取り組んだ。</p> <p>令和4年8月から、民生児童委員を中心として「第2層協議体」<u>西部地区(西部中校区)、東部地区(東部中校区)</u>の開設を行い、偶数月に定例会議を開催した。</p>	通年

2	広報・啓発の取組み(情報発信)	社協事業の広報・啓発のため、積極的に各種の会議等に出向き説明、講話を行いました。マスコミや各種メディアへも積極的に情報提供を行い、新聞、テレビ、CATV等で採り上げられ、大きなPR効果があった。	随時
3	各種研修会参加(スキルアップと情報収集)	職員(生活支援コーディネーター)のスキルアップや、地域のまちづくりの現状や課題を把握するため、各種の研修会、講座、意見交換会等に積極的に参加しました。	通年
4	市民団体、ボランティア組織との連携	高齢者の社会参加、地域貢献、健康寿命延伸、相互の見守り等を通じて、支えられる側から支える側へ回り、地域づくりの一端を担うことをめざす鹿島市老連等、市民組織や関係機関との連携を強化した(ボランティア活動センター事業等)	随時
5	リモート会議の導入・Zoom活用	「コロナ禍」への対応として、各種会議をリモート(オンライン)で行えるように、オンライン会議アプリ「Zoom」を導入し、研修や会議等で活用した。	随時
6	「地域福祉事業」の「拠点」づくり ・旧「吹上荘」施設 ・「もりの家」	令和元年に事業を終了した旧「吹上荘」関連施設を、「地域福祉」「生活支援体制整備」の「拠点(介護予防支援センター)」として活用を行った(令和2年:祐愛会と契約締結) 「地域共生ステーション・もりの家」の施設活用で、「シニアカフェ」、「なでしこサロン」などの会場として活用した。	随時
7	高齢者実態調査 ・独居高齢者等の状況調査(4月1日:現在)	民生委員の協力を得て、鹿島市内の全行政区(84)について65歳以上(高齢者)の状況(在宅での独居等)の調査を行い、鹿島市や鹿島市議会へ提供した。	1
8	災害発生など緊急事態への対応(平時の備え)	災害発生時での「災害ボランティア活動」など、災害弱者等への支援体制整備を平時から取り組んだ(研修、訓練への参加)	通年

## (2) 第2層の活動(中学校区や各行政区を視野に入れた活動)

- ・平成30年4月1日に鹿島市より事業受託し、令和4年8月に「第2層協議体」として民生児童委員を中心に「西部地区」「東部地区」を開設
- ・個別訪問や地域へ出向くことで、ニーズの把握や地域資源の発掘を行った。
- ・さまざまな会議に出席することで課題の抽出ができ、新たなサービスの開発に繋がった。
- ・ボランティアの活動を支援し“住民主体の福祉のまちづくり”を目指した。
- ・安全・安心に日常生活が送れるよう、広報・啓発に取り組んだ。

### (実施状況)

No.	関係先等	事業内容	件数
1	買物応援バス(七浦地区)	七浦地区の買物が困難な高齢者を対象に、買物応援バスを月2回運行した。	22
2	買物応援バス(浜地区)	新たなエリア拡大として浜地区でも11月から買物が困難な高齢者を対象に、買い物応援バスを月2回運行開始した。	6

3	シニアカフェ	閉じこもりがちな高齢者（特に男性）が集う参加者主体の居場所を令和2年11月より毎週月曜日の午後より開始した。	42
4	なでしこサロン	視覚に障がいをお持ちの方たちが、自分たちしか分からない不安や悩みを語り合うことで、少しでも前向きに、楽しみを持って生活できるよう、集いの場を令和3年3月より月1回で開始した。	11
5	会議出席	（委員として出席） ・地域ケア個別会議（2か月に1回） ・地域包括ケアネットワーク会議（年3回） ・第1層協議体会議（奇数月） ・第2層協議体会議（偶数月）R4年8月発足 ・サービス担当者会議 ・佐賀県SC連絡会 ・鹿島市民生委員・児童委員連絡協議会 など	適時



第1層協議体会議（成年後見研修）



第2層協議体（フィールドワーク：地域課題の抽出）

### ◎買物応援バス

（実施状況：七浦地区）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	22
参加者数	26	22	19	11	10	17	20	23	23	18	23	25	237
協力者数	8	7	7	3	4	10	8	7	7	8	7	6	82

- ・令和元年10月から七浦地区を対象としてスタートし現在でも月2回継続中
- ・毎月2回、第1金曜日・第3火曜日を目処に実施し、参加希望者は、事前登録（随時受付）をいただいている。
- ・当日は、社協の福祉バスで、各地区の集合場所（公民館等）まで送迎。
- ・鹿島市内のスーパーなどの商業施設で、ボランティアスタッフに協力（見守り、商品さがし、レジ等）をいただきながら買物を行う。
- ・年に数回、市外に出向きミニドライブ（花見等）を実施している。
- ・参加登録者18人（七浦地区）、ボランティア登録者12人（R6.3.31現在）

(実施状況：浜地区)

区分	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	2	1	1	2	6
参加者数	17	8	11	17	53
協力者数	10	7	5	14	36

- ・新たなエリア拡大として令和5年11月に浜地区を対象に試験運行を実施。  
**必要条件が①ニーズ（必要性、参加登録者）がある事。②当日の参加者のとりまとめをする担当者の確保（期日、時間の周知、参加人数の確認等）③当日支援していただく買物ボランティアの確保（商品探し、レジの支援）**の3つの条件が整ったので12月から本格的にスタート。
- ・浜地区も月2回【第2木曜日、第4金曜日】を基本日として、各地区の集合場所から乗降してもらい鹿島市内外の商業施設にて買物支援を実施中。
- ・参加登録者15人（浜地区）、ボランティア登録者8人（うち民生児童委員4人）



ボランティアと一緒に買い物（七浦地区）



セルフレジにも挑戦（浜地区）

◎「シニアカフェ」

- ・対象者は、誰かと話したいが、大勢の中での活動が苦手な方や、女性の中では恥ずかしくて緊張するような方。
- ・毎週月曜日13時～16時（開始：令和2年11月2日より）
- ・麻雀、カラオケ、卓球、談話、運動など参加者自身が興味のあることに参加
- ・移動手段がない人に関しては、社協にて送迎サービス実施
- ・参加者総数：延べ603人（R6.3.31現在）

(実施状況)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	4	5	4	1	3	3	4	4	4	3	3	4	42
参加者数	51	73	56	14	43	37	65	56	51	49	51	57	603



◎「なでしこサロン」（視力障がいをお持ちの方）

- ・対象者（視力障がいをお持ちの方）と立上げ打合せ（計7回）実施
- ・令和3年3月2日より、毎月第4水曜日13時30分～16時30分
- ・利用者 8人（女性） 登録ボランティア10人 （R6.3.31現在）

（実施状況）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	11
参加者数	6	6	6	4	5	7	7	7	8	0	8	7	71
協力者数	4	4	2	3	3	2	2	3	3	0	3	3	32



「なでしこサロン」で利用者同士談話

■今後の重点的な取組み（生活支援体制整備事業）

（1）ボランティア活動への協力お願い（スタッフの充実） ※ご利用者様も募集

- ①買物応援バス + 介護予防教室 ⇒エリア拡大を検討
- ②シニアカフェ（高齢者の集いの場）
- ③なでしこサロン（視覚に障がいをお持ちの方の集いの場）
- ④人財バンク登録者（募集） ⇒主に個人ボランティア様
- ⑤鹿島市ボランティア連絡協議会（登録団体）会員募集
- ⑥その他、ボランティア募集（老人クラブやサロン訪問、イベント等、随時）

（2）社協事業の充実について（※令和6年度の目標）生活支援体制整備事業

①買物応援バスのエリア拡大（試験運行）

- ・「買物応援バス」の「試験運行」を希望される地域で実施したい
- ・運行に必要な地域の協力等について協議し、条件が整えば「試験運行」を実施

②地域での「まちづくり懇談会」の開催

- ・行政区(部落)単位、グループ単位（サロン、老人クラブ等）規模を問わず、地域の生活課題や地域ニーズ（困りごと等）について懇談会を開催したい（随時）
- ・地域の区長会、民生児童委員、公民館、振興会等の関係団体と連携して開催

③「協議体会議」の開催

- ・「第1層協議体」「第2層協議体（西部地区）、（東部地区）」の会議の開催と協議体会議の活性化、有効活用（地域資源の発掘と開発など）

#### ④ 様々なニーズに対応した「ボランティア養成講座」の開催

※使わない<参考資料>

##### ○これまでの経過（全体の流れ）

- ・平成28年10月に、鹿島市からの受託事業として取り組みを開始
  - ・まず、鹿島市全域を担当する「第1層生活支援コーディネーター」を配置
  - ・平成29年10月から鹿島市生活支援体制整備事業「第1層協議体会議」を開催
  - ・奇数月に定例会を開催し、協議体委員20人で“地域住民が主体となった福祉のまちづくり”推進のため話し合いを行っている
- ↓
- ・平成30年4月に、中学校エリアを念頭に「第2層生活支援コーディネーター」を配置
  - ・積極的に地域に出向き、地域資源やニーズの把握に努め、新たな地域資源の開発をめざす
- ↓
- ・市内でも特に少子化、高齢化が進む「七浦地区」を対象に地域住民を交えた『七浦の未来を守ろう会』を計6回開催し、地域のまちづくりについて、意見交換などを行う（平成30年）
- ↓
- ・令和4年8月に「第2層協議体（西部地区：鹿島、能古見、北鹿島＝8人）（東部地区：古枝、浜、七浦＝7人）」を開設。偶数月に、定例会を開催して、地域の課題や地域資源を発掘の情報交換を図っている。

## 15. 福祉バスの運行管理事業

福祉バスの運行で、鹿島市（行政、小中学校）や市内の福祉団体、ボランティアグループの研修活動等を支援しました。年間、計217件の利用があり、利用寄付金 747,300円の実績を収めました。

☆利用状況内訳

区 分	利用件数
老人クラブ	16
行政機関(鹿島市)	63
福祉施設等	24
各種団体	50
ボランティア	1
鹿島市社協	39
サロン等	24
合 計	217

鹿島市社協の福祉バス「さくら号」



(参考)令和4年度(174件、348,200円)

## 16. その他この法人の目的達成のために必要な事業

### (1) 生活お困りごと相談

「生活困窮者自立支援事業」と合わせて、「対象者や内容を限定しない」、「断らない」生活全般の相談窓口とし、市民から広く相談を受け付けました。

その問題解決のプロセスの中で地域課題を見出し、新たなサービスや社会資源の創設、充実につなげました。

支援員が相談を受けて、どのような支援が必要かを相談者と一緒に考え「支援プラン」を作成し寄り添いながら自立に向けた支援を行いました。

○具体的には（※ご相談の内容は限定しません）

- ・生活に困っている、多額の借金がある
- ・税金、家賃、水道料、電気料等を滞納している
- ・働きたいけど、どうしていいのかわからない
- ・社会に出るのが不安、仕事に就いても長続きしない
- ・引きこもりの子どもの将来が心配（家族の悩み全般）
- ・その他、何らかの「生きづらさ」や「悩み」を抱えている方 など

ご相談は（できるだけ、ご予約を）・・・  
**鹿島市生活自立支援センター**  
 （鹿島市社協内）  
**電話：0954(62)2447**

### (2) 暮らしの手続無料相談会

佐賀県行政書士会（杵藤支部）の協力をいただき、鹿島市社協との共催事業として、生活のための各種の手続きについて、定期相談会（月1回）を実施しました。

相談内容は、「相続」、「遺言」、「死後事務」、「成年後見制度」、「借金」、「離婚」など多岐にわたりました。

☆相談実績（R5.4～R6.3）

相談件数	20件
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相続について</li> <li>・成年後見制度</li> <li>・借金問題 など</li> </ul>



### (3) 鹿島市地域包括支援センターへの職員派遣（運営支援）

高齢者の総合相談窓口である鹿島市市民部保険健康課の「鹿島市地域包括支援センター」へ、鹿島市社協から、社会福祉士（1人）を派遣しています。これにより、高齢者福祉を中心とした、総合相談業務や、高齢者虐待、DV、成年後見制度などの権利擁護、認知症サポーター養成講座開催等に関する業務を支援し、鹿島市社協の事業との連携を深めました。

### (4) 日本赤十字事業の推進

日本赤十字佐賀県支部鹿島市地区（地区長：鹿島市長）の業務を推進し、会費募集を5～6月に広報活動を行い、区長会の協力を得て実施しました。【一 般 会費総額4,397,250円】



☆日赤会費募集状況（1世帯当たり目標額500円）

地区名	募集目標 世帯数	目標額	実績 世帯数	実績額
		円		円
鹿島	5,006	2,503,000	4,541	2,270,500
能古見	1,016	508,000	896.5	448,250
古枝	839	419,500	840	420,000
浜	962	481,000	823	411,500
北鹿島	1,191	595,500	937	468,500
七浦	848	424,000	727	363,500
小計	9,862	4,931,000	8,764.5	4,382,250
応能寄付金				15,000
合計				4,397,250

（前年度実績 4,461,500円）

#### ○ウクライナ人道危機救援金（募金）

- ・期間：令和4年3月2日（水）～令和6年3月31日（日）
- ・主催：日本赤十字社、日赤佐賀県支部、鹿島市社協
- ・実績：426,115円（令和6年3月31日：現在）



東部中様から能登半島地震災害義援金の寄付

#### ○令和6年能登半島地震災害義援金（募金）

- ・期間：令和6年1月5日（金）～令和6年12月27日（金）
- ・主催：日本赤十字社、日赤佐賀県支部、鹿島市社協
- ・実績：2,763,494円（令和6年3月31日：現在）

#### ○九州八県赤十字大会に参加（佐賀県開催）

11月16日に「令和5年度九州八県赤十字大会」が佐賀市のSAGAアリーナで開催され、鹿島市から社協役職員と6地区区長会長、6地区民児協会長と参加しました。令和6年度は「福岡県」での開催となります。

### (5) 旧「吹上荘」関連施設の活用

「感染症予防」の影響で、施設での本格的な研修会や教室、講座などの開催は、休止が続きました。今後は、「祐愛会」と密接に連携しながら、住民主体の「生活支援」、「介護予防」などの「福祉のまちづくり」の拠点施設として有効に活用し、機能するように取組みます。

## 社会福祉協議会の5つの活動理念

（1992年、全国社会福祉協議会が策定した「新・社会福祉協議会基本要綱」抜粋）

1. 住民ニーズ基本の原則	調査等により、地域住民の要望、福祉課題の把握等に努め、住民のニーズに基づく活動を進めます。
2. 住民活動主体の原則	住民の地域福祉への関心を高め、そこから生まれた自発的な参加による組織を基盤として、活動を進めます。
3. 民間性の原則	民間組織らしく、開拓性、即応性、柔軟性を活かした活動を進めます。
4. 公私協働の原則	福祉・保健・医療・教育の行政機関や民間団体等との連携を図り、行政と民間組織との協働による活動を進めます。
5. 専門性の原則	住民の福祉活動の組織化、ニーズ把握調査、地域福祉活動の計画づくりなど、福祉の専門性を活かし、活動を進めます。



昭和47年6月制定

このマークは、社会福祉協議会のシンボルマークです。（全国共通）社会福祉及び社会福祉協議会の「社」を図案化し、「手を取りあつて、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

社会福祉法人 鹿島市社会福祉協議会

〒849-1311

佐賀県鹿島市大字高津原4326-1

鹿島市民交流プラザ「かたらい」3F

電話 0954-62-2447 FAX 0954-62-3959